

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 石井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	107人	算数	107人	理科	107人
第5学年	国語	119人	算数	119人	理科	120人

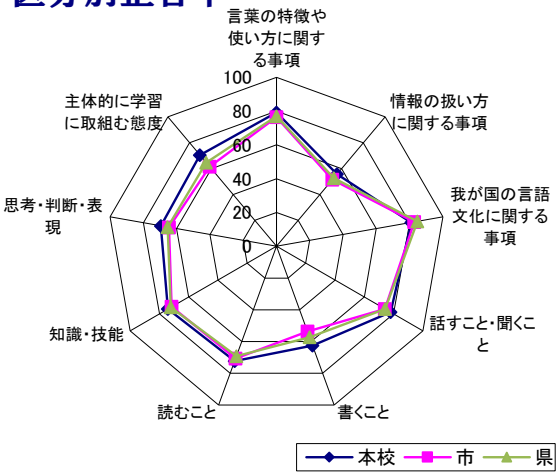
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.2	76.4	77.0
	情報の扱い方に関する事項	55.7	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	81.0	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	77.9	74.1	74.2
	書くこと	62.6	53.7	57.2
	読むこと	72.3	70.7	69.2
観点	知識・技能	74.3	71.6	72.3
	思考・判断・表現	69.5	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	70.5	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

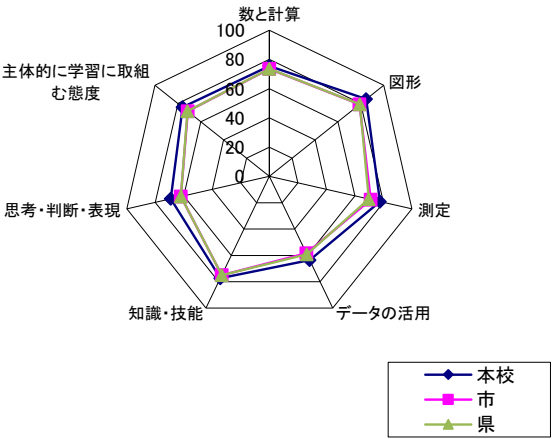
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、県と市の平均を上回っている。 ○「漢字の読み・書き」に関する問題の正答率は県や市の平均より高い。 ●「ローマ字で表記されたものを正しく読んでいる」に関する問題の正答率は県や市の平均より低い。	・漢字の読み・書きについては、ドリルなどを利用し、継続して指導していく。 ・ローマ字については、継続して練習プリントなどに取り組みさせることにより習熟を図っていく。また、タブレットを用いた学習の際、ローマ字入力に慣れるよう指導し、ローマ字の必要性を理解させていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、県と市の平均を上回っている。 ○「情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書くことができる」に関する問題の正答率は県や市の平均より高い。 ●「情報をもとに中心となる語や文を見付けて要約したり、根拠となる考えやそれを支える理由を明確にして書いたりする」に関する問題の正答率は、県や市の平均を上回ってはいるものの、5割を下回っている。	・国語だけでなく他教科の学習においても、情報と情報との関係性を明確にし、自分の考えを交えながら文章を書く活動を取り入れ、指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、県と市の平均を上回っている。 ○「漢字のへんやつくりを理解している」に関する問題の正答率は県や市の平均より高い。	・漢字に関する学習の際、児童の興味関心が高まるよう引き続き指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県と市の平均を上回っている。 ○「相手に伝わるように自分の考えを理由を挙げながら話している」に関する問題の正答率は県や市の平均より高い。 ●「話し手が伝えたいことの中心を捉えている」に関する問題の正答率は県や市の平均と同程度ではあるものの74%である。	・国語だけでなく、話を聞く場面において、話の中心を考えながら聞くことができるよう指導していく。
書くこと	平均正答率は、県と市の平均を上回っている。 ○「自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書いている」に関する問題の正答率は県や市の平均より高い。 ●「情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いている」に関する問題の正答率は県や市の平均より10ポイント程度低い。	・国語だけでなく他教科の学習においても情報を活用し、書く場面を設定し、情報を理解する力、得た多くの情報の中から必要な情報を取捨選択する力、さらに、条件に合わせて情報を活用して文章を書く力を育てることができるよう指導していく。
読むこと	平均正答率は、県と市の平均を上回っている。 ○「文章を読んで感じたことや考えたことを共有している」に関する問題の正答率は県や市の平均より高く90%を超えている。 ●「叙述を基に段落の内容を捉えている」「情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約している」に関する問題の正答率は県や市の平均と同程度であるもののおよそ50%である。	・説明的文章の学習では、段落ごとの内容を整理し、全体の構成をとらえ、文章の内容を理解できるよう指導していく。また、大事な語や文を見付けて要約する活動も取り入れ、指導していきたい。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.5	73.5	73.6
	図形	84.8	79.0	79.1
	測定	77.6	71.1	69.8
	データの活用	63.5	58.4	59.2
観点	知識・技能	77.3	75.0	75.0
	思考・判断・表現	69.2	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	76.0	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

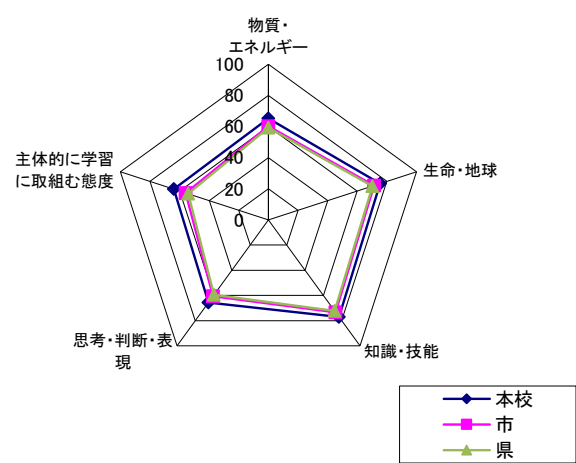
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○分数の仕組みについてや、□を使った減法の式に合った文章題を選ぶ設問での正答率が高かった。 ●文章題を解くための式を選ぶ設問で、県や市の正答率を下回った。 ●「2けた×1けた＝3けた」の設問で正答率が低かった。6の段の定着度が低いと思われる。また、大きな数や小数の数の仕組みについての設問で県や市の正答率を下回った。	・加減乗除の適応について、文章問題の事柄や数量の関係を図にしたり、表にまとめたりするなどの手立てを指導する。 ・基礎的な計算問題を、家庭学習や一人一台端末でのドリル学習などを活用し、習熟を図る。 ・繰り返し練習問題に取り組む機会を増やし、十進位取り記数法の仕組みについて習熟を図る。
図形	領域の平均正答率は、県や市より5ポイント程高い。 ○円の仕組みについてよく理解できている。	・今後も具体物を用いながら図形の概念を捉えさせ、理解を深めていく。
測定	○はかりの目盛りを正しく読み取ることができている。また、単位の前にkがつくと、もとの単位の1000倍になることがよく理解できている。	・引き続き、一目盛りの値の違うはかりを使い、実際に測定することにより、正確な知識・技能を身に付けさせたい。また、長さや重さの量感について、他教科との関連を図り、具体的にイメージできるような場面を意図的に設定する。
データの活用	○棒グラフの数値の読み取りについては正しく理解できている。 ●ある棒グラフからでは分からない事項は何かという問いに対しての正答率が低かった。	・類似の問題に取り組ませたり、グラフに表す活動を積極的に取り入れたりして、更に習熟を図っていく。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.2	60.2	59.2
	生命・地球	75.4	71.3	70.3
観点	知識・技能	77.1	73.4	72.3
	思考・判断・表現	65.7	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	63.9	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	領域の平均正答率は、ほとんどの問題で県や市の平均よりも高い。 ○「物の重さ」に関する問題の中では、物の形が変わっても重さは変わらないことをよく理解している。 ●容量の大きい飲料の容器にプラスチックが使用されている理由を、実験の結果から推測し、説明する問題の正答率が低い。	・昨年に引き続き、授業の中で、考察やまとめなど自分の言葉を使って説明する活動を積極的に取り入れる。
生命・地球	領域の平均正答率は、ほとんどの問題で県や市の平均よりも高い。 ○「こん中の育ち方」に関する問題では、こん中のからだのつくりをよく理解している。 ●「植物の育ち方」に関する問題では、問題の資料の読み取りが不十分で、きちんと設問に答えることができない児童が多い。	・実際に見たり、体験したりした内容については、今後できるだけ授業の中で細かいポイントを押さえるなど、実験や観察を丁寧に扱っていくようにする。

宇都宮市立石井小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○各教科の理解を問う「国語や社会、算数、理科の授業内容はよく分かりますか」では、90%前後の肯定的回答が得られている。普段の授業において児童の気付きや考えを大切にした授業を展開するとともに、考える場や活動時間を確保することで安心した学びを保障することにつながると考えられる。引き続き、児童の意欲的な学びにつながるよう働きかけていきたい。

○家庭学習に関係する「家で学校の宿題をしている」や「宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答は、県や市の平均を超えている。このことから、学年全体で取り組んでいる自主学習への取組が定着しているとともに、地域学校園で配布している「家庭学習のすすめ」の冊子などの効果もあり、児童の学習に対する保護者の意識が高いことも一因していると考えられる。

○学習態度に関係する「授業を集中して受けている」や「友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の肯定的回答は、90%を超えている。授業では、「考えたいような」、「解きたいような」発問となるように課題の提示を工夫したり、自分の考えと他の考え方について「類似点」と「相違点」を聞き分け、その内容を比較する場を設定したりすることで、「聞くこと」の大切さや意義を見出すことにつながっていると考えられる。

○自律的態度や規範意識に関係する「学校のきまりを守っている」や「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の肯定的回答は、90%であり、県や市の平均と同等か上回る結果であった。道徳の授業や学級での当番・係活動を通して、他者を思う心や貢献的態度のよさを前向きにとらえられるようになり、自他の行動について深く考え、実践的態度につながっていると考えられる。

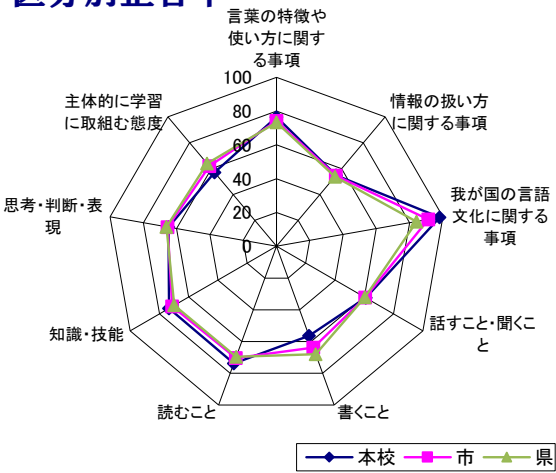
●「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」では、県や市の平均を下回っている。振り返りの場は、学習内容を確認することで自己理解や自己変容、課題を見出す時間であるため、振り返りの場が確保できるように授業内容や活動の時間配分を考えていきたい。

●「家の人と将来のことについて話すことがある」の肯定的回答は、60.4%であった。将来に対する夢や具体的な職業については、自分事として捉えることが難しく、家族団らんにおいて話題になるまでのテーマにはなり得ていない状況といえる。自分の将来に夢を抱き、働くことの意義や自分のよさが見い出せるように体験的活動を取り入れたり、職業観や勤労観につながるようなテーマを総合的な学習の時間に位置付けたりして、対応していきたい。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.5	74.2	73.3
	情報の扱い方に関する事項	54.9	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	98.1	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	61.0	60.6	60.4
	書くこと	56.4	63.8	68.0
	読むこと	73.8	70.4	69.6
観点	知識・技能	73.4	71.3	69.9
	思考・判断・表現	64.9	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	57.0	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

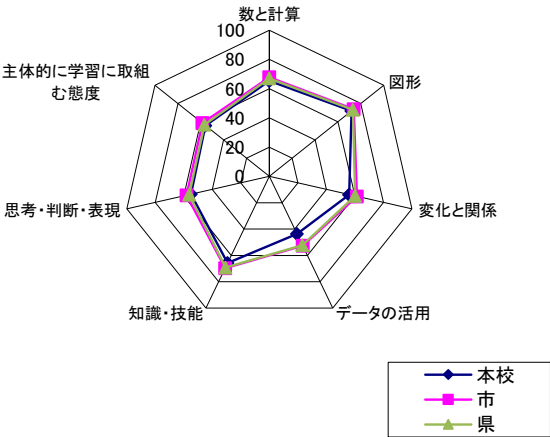
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	領域の平均正答率は、県より3.2ポイント、市より2.3ポイント上回っている。 ○第4学年に配当されている漢字の読み書きは、概ねできている。	・漢字の読み書きや文法事項についての確認テストを定期的実施することで、児童の理解度を把握するとともに、結果に応じて家庭学習の課題として示すなど理解力の向上や学習への自信へとつなげていく。 ・語彙を増やすために、読書や読み聞かせの機会を設ける。
情報の扱い方に関する事項	領域の平均正答率は、県より1.1ポイント、市より0.2ポイント上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、段落相互の関係を捉えることが苦手である。	・物語文や説明文を学習する際に、要旨をとらえさせるだけでなく、必要に応じて教科書に線を引くなど、文の構造を視覚的にも理解できるようにする。 ・漢字辞典や国語辞典を使う機会を増やすとともに、その使い方を身に付けさせていく。 ・授業の中で、情報と情報との関係について読み取るような問題を扱う。
我が国の言語文化に関する事項	領域の平均正答率は、県より13.9ポイント、市より6.9ポイント上回っている。 ○ことわざの意味を知り、文章の中で正しく使うことができている。	・授業以外でもことわざを使っていく場面を増やし、わが国の言語文化に触れさせていきたい。
話すこと・聞くこと	領域の平均正答率は、県より0.6ポイント、市より0.4ポイント上回っている。 ○話の中心に気をつけて聞き取ることや話し方の工夫に注意して聞き取ることができる。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことに関して、正答率が5割を下回った。	・話し合いの場では話し手が伝えたいことの中心を捉え、自分の考えをもって参加できるようにさせる。 ・友達の意見を聞くときには、共通点や相違点に気を付け、メモを取りながら聞く経験を積ませる。
書くこと	領域の平均正答率は、県より11.6ポイント、市より7.4ポイント下回っている。 ●作文を書く問題では、どの設問に関しても県と市の正答率を下回っている。問題の条件の通りに書くことを苦手としている児童が多い。	・作文やパンフレットなど、様々な形態の文章を書く過程において、文章や図・イラストなどを活用する目的や意図をより意識させながら、取り組ませたい。 ・国語の授業以外の指導においても、子供たちに条件を与えて書く活動を取り入れていく。(50～100字以内で書くようにするなど。)
読むこと	領域の平均正答率は、県より4.2ポイント、市より3.4ポイント上回っている。 ○物語の「場面の様子の読み取り」や説明文の「文章の内容を読み取る」問題では、県と市の正答率を上回っている。 ●説明文の問題では、段落ごとの役割を理解して、文章の内容を読み取ることを苦手としている児童が多い。	・必要な情報を得るために、自分の目的に応じて適切な段落や部分を選んで読むことが苦手である。何を問われているかを明確にし、どのように読めばよいのか確認しながら取り組ませる。 ・説明文の学習では、段落相互の関係を丁寧に捉えさせていく。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.4	67.8	67.0
	図形	71.9	73.9	73.1
	変化と関係	56.0	61.4	60.2
	データの活用	43.6	52.7	52.1
観点	知識・技能	65.8	69.7	69.2
	思考・判断・表現	55.0	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	55.9	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

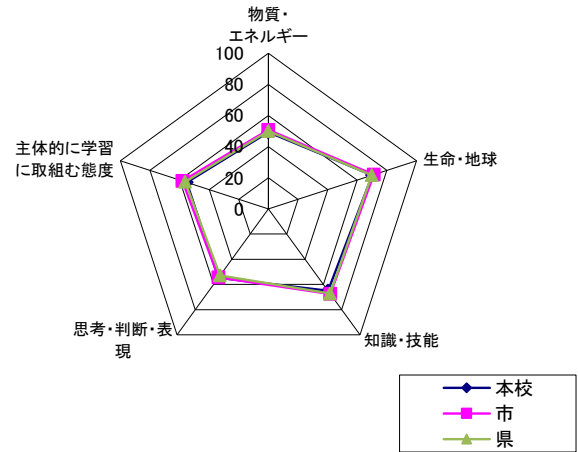
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	領域の平均正答率は、県より1.6ポイント、市より2.4ポイント下回った。 ○整数と分数の大小比較は県の平均正答率より上回っていた。 ●数字を上から二けたの概数に変換する操作については、県の平均正答率より下回っていた。	・計算ドリル等を活用し、既習事項を正確にできるように繰り返し学習に取り組ませる。 ・事柄や関係を図に表したり、数直線に表したりするなどの基本的な活動を再度復習させる。
図形	領域の平均正答率は、県より1.2ポイント、市より2ポイント下回った。 ○直方体の「ある辺」に平行な辺を記述する問題については、県の平均正答率を上回っていた。 ●180°より大きい角の大きさの求め方については、県の平均正答率を下回っていた。	・計算ドリル等を活用し、既習事項を正確に理解できるように適宜繰り返し学習を行う。 ・角の大きさを計算で求める演習に繰り返し取り組ませる。
変化と関係	領域の平均正答率は、県より4.2ポイント、市より5.4ポイント下回った。 ○割合を用いて数量関係を説明する問題については、県の平均正答率を上回っていた。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題については、県の平均正答率を下回っていた。	・普段から文章題や活用問題に取り組ませることにより抵抗感なく取り組めるようにしていく。 ・授業の中で、思考過程やまとめを行う段階で自分の言葉を使って説明させたり、記述させたりする活動を積極的に取り入れる。
データの活用	領域の平均正答率は、県より8.5ポイント、市より9.1ポイント下回った。 ○二次元表を読み取ることについては、県の平均正答率を若干上回った。 ●折れ線グラフを読み取ることについては、県の平均正答率を下回っていた。	・グラフや表からデータを正確に読み取るための演習を繰り返す。 ・他教科でも、複数の観点で示された情報とグラフを関連付けて解釈し、表現する活動を積極的に取り入れていく。 ・授業の中で、思考過程やまとめを行う段階で自分の言葉を使って説明させたり、記述させたりする活動を積極的に取り入れる。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	49.3	50.8	50.0
	生命・地球	70.1	71.1	69.8
観点	知識・技能	65.0	67.6	67.2
	思考・判断・表現	54.7	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	55.2	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	領域の正答率は、県や市と同程度である。 ○「物の体積と温度」において、温度による体積変化が発生することについての問題に関しては、正答率が市の平均を上回っている。 ●「電気のはたらき」において、電流や回路の定義、直列つなぎと並列つなぎにおける電流の強さを問う問題において正答率が低い。 ●「水のすがた」において、水を冷やしたときの温度変化について問う問題において正答率が低い。	・実際に見たり、体験したりした内容については、今後できるだけ授業の中で実験や観察を丁寧に扱っていくようにする。 ・自己の思考過程の流れがつかめるノートの取り方の指導に重点を置き、自分の考えを記述させたり、自分の言葉で書かせたりする活動を多く取り入れていく。
生命・地球	領域の正答率は、県や市と同程度である。 ○「月と星」において、星座の並び方を問う問題についての正答率が市の平均を上回っている。 ○「雨水のゆくえと地面のようす」において、土の粒の大きさと水はけの関係について問う問題の正答率が市の平均を10ポイント上回っている。 ○「自然の中の水」において、実験の結果から水たまりの水がなくなる理由について答える問題の正答率が市の平均を上回っている。 ●「動物のからだのつくりと運動」において、筋肉の様子についてや関節についての理解が市の平均と比べて低い。 ●「1年間の植物の成長」においては、ヘチマの実の変化の様子についての正答率が低い。	・実際に見たり、体験したりした内容については、今後できるだけ授業の中で実験や観察を丁寧に扱っていくようにする。 ・「課題に対する予想を立てる」「目的意識や見通しをもって実験、観察をする」「結果を記録し話し合う」「考察しまとめる」の流れを明確にした授業を展開し、自然の事物・現象を科学的に探究する力を育てる。 ・毎日の生活の中で、方位を意識させる声かけをしたり、他教科の学習と関連付けたりしていくことで、方位と自然現象(月、星、太陽、天気)の関連について考えさせていく。 ・「目に見えないもの」を理解させるためにモデル図を書かせたり、模型を活用したりすることで、視覚に訴えるような活動を行う。また、科学的な言葉を使って言語化させる学習活動を授業の中に位置付ける。

宇都宮市立石井小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「将来の夢や目標をもっている」、「自分にはよいところがあると思う」、「自分は勉強がよくできる方だと思う」、「自分は家族の大切な一員だと思う」など、自己肯定感に関係する質問への回答は県や市の平均を上回る傾向があり、自己肯定感の高さがうかがえる。また、「クラスは発言しやすい雰囲気である」という質問の回答も県や市の平均を上回っている。友達のよいところを見つけたり、よさを認め合う活動を係活動やたてわり活動の中に意図的に取り入れたことにより、児童の自己肯定感が高まったと考えられる。今後も継続して授業や学校生活の中によさを認めあう活動を取り入れていきたい。

●「家で学校の学習の復習をしている」、「テストの間違えた問題について勉強している」、「分からないことがあったらインターネットを利用して調べている」などは県や市の平均を下回っている。宿題や家庭学習に取り組む習慣は定着してきているが、自主学習においては計算練習や漢字練習など同じ学習内容を繰り返している児童も見られる。授業で分からなかったことや、言葉の意味について調べるなど、高学年に適した自主学習の内容を紹介したり、内容を児童に任せるとき、担任が指定するときに分けて行ったりすることで家庭学習の充実を図りたい。

●「早寝早起きを心掛けている」は県や市の平均を下回っている。また、「ふだん(月～金)1日にどれくらいの時間すいみんをとることが最も多いか」の質問には「6時間以上7時間より少ない」と回答した児童が10.3%いた。これは県や市の平均を上回っており、睡眠時間が少ない児童が多いと言える。早寝早起きを心掛け、十分な睡眠時間を取って健康な生活を送れるように家庭にも現状を周知しながら継続的に指導していく。

●平日のテレビやビデオ・DVDなどを見たり、聞いたりしている時間に関しては、1日4時間以上の児童が21.5%、また、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をする時間も1日4時間以上の児童が14%いる。家庭の中で使う時間や使い方の約束を決めて使用するなど、家庭への啓発を行い、連携を図りながら適切な使用時間を守れるように指導していきたい。

○1か月に5冊以上読む児童が半数を超えていて、読書好きの児童が多いことが分かる。一方で、1冊も読まない児童が6.5%いる。児童同士でおすすめの本を紹介し合うなど、読書の楽しみがより多くの児童の間で共有されるように指導していきたい。

宇都宮市立石井小学校 (第4・5学年共通)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるまとめ・振り返りの充実	授業のはじめに目標(めあて・ねらい)を示し、最後に学習内容を振り返る活動を計画的に取り入れ、「ねらい」から「振り返り」までのつながりを意識した指導をしている。	4年生と5年生の児童の肯定的回答の割合を見ると、「授業の中で、目標(めあて・ねらい)」が示されている」、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」、「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」では、それぞれ県や市よりも5～10ポイント低くなっている。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「石井っ子の学習」「家庭学習のすすめ」「家庭学習の進め方」を活用して家庭学習への意識の向上を図るとともに、内容や進め方等について各学級で指導している。また、懇談会等で話題にし、保護者の理解や協力を得られるようにしている。	「家で、学校の宿題をしている」に肯定的に回答した児童の割合は、4年生が96.6%、5年生が95.3%と高い。また、自ら取り組む態度に関わる「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」への肯定的回答は、4年生が61.2%、5年生が56.1%で、ともに県や市の平均と同程度である。「家で、自分で計画を立てて勉強している」では、4年生は75.8%で県や市の平均よりも8ポイント程高いが、5年生は67.3%で県や市の平均よりも5ポイント程低い。さらに、「家で、学校の授業の予習・復習をしている」については、県や市の平均とほぼ同じか、やや低い傾向にある。
言語活動の充実	授業の中で、協働的な学習を積極的に行い、一人一人が自分の考えを発表し合う活動を取り入れたり、自分の考えを書く時間を確保したりしている。	「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に肯定的に回答した児童の割合は、4年生が65.6%、5年生が71.9%と、県や市の平均と比べると4年生では9ポイント、5年生では6ポイント回っている。また、「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」に肯定的に回答した児童の割合においても、4年生が71.6%、5年生が80.3%と、どちらも県や市の平均より5ポイント程低い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査において、いくつかの情報を基に整理して書くような記述式設問における正答率が県や市の平均よりも低い傾向にある。また、質問紙では「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」という設問に肯定的に回答した児童が5～6割いる。	条件に応じて自分の考えを書く活動の充実	様々な機会を捉えて、自分の考えを端的に記述する活動や、複数の資料から目的に合った情報を抜き出してまとめたり、メモを基に文章を書いたりする活動を取り入れていく。また、自分の考えを書く際に、字数や使用しなければならない語句の条件を段階的に増やすなど提示の仕方を工夫し、条件に合わせ、自分の考えをまとめて記述する力を養っていくようにする。また、思考の過程を励ますことで自信をもたせ、自分の言葉で考えたことを表現できるようにさせていきたい。児童に寄り添いながら、諦めずに挑戦する意欲を高めるようにしていく。